

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 6/15~6/29)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m³あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m³)を測定しました。※下段()内は検出限界値。

測定地点			6/15~6/22	6/22~6/29
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.044 (0.014)	0.037 (0.013)
		Cs137	0.230 (0.014)	0.210 (0.012)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	不検出 (0.020)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.068 (0.018)	0.075 (0.014)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.020)	不検出 (0.017)
		Cs137	0.028 (0.020)	0.040 (0.018)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.017)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.042 (0.016)	0.028 (0.016)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.017)	不検出 (0.012)
		Cs137	不検出 (0.017)	0.018 (0.013)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			6/15~6/22	6/22~6/29
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	0.036 (0.012)	0.031 (0.013)
		Cs137	0.160 (0.012)	0.160 (0.014)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.012)
		Cs137	0.055 (0.016)	0.029 (0.0096)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.046 (0.017)	0.038 (0.011)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.056 (0.012)	0.050 (0.016)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	0.022 (0.012)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.100 (0.013)	0.069 (0.011)

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

今回の観測値は、多少の変動はあるもののセシウム137で測定限界に近い平均0.09~0.07 mBq/m³と極めて低い濃度で推移しました。

また、前回、比較的高い値が観測された鹿島消防屯所でも検出限界値に近い0.018 mBq/m³が観測されただけでした。

今後も時々、数mBq/m³程度の濃度の放射性粉塵の飛散が起きることがあると思いますが、放射能量は、健康影響を考慮せねばならない量に比べ桁違いに小さいため問題はありません。